

平成9年5月6日発行

上智大学英語学科同窓会
東京都千代田区紀尾井町7-1
上智大学英語学科事務室 気付**Sophia English Language Department Alumni Association****KISSING THE
BLARNEY STONE!**英語学科教授 **Fr. Donal Doyle, S.J.**

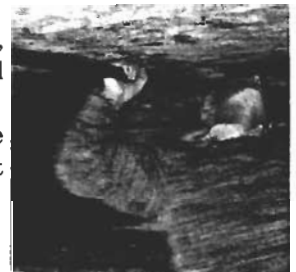
Visitors from all over the world flock to a small village in Ireland called Blarney to see the legendary Blarney Stone in the ruined wall of the castle. Kissing the stone is a long-standing tradition, intended to confer a magical eloquence! So if you notice a touch of "the Blarney" in some of our recent graduates, you will know that they are some of the 177 Jochi students who have come to Ireland with me on my annual Ireland Studies Tour! Since I became a member of the teaching staff of the English Language Department in 1985, I have been teaching a course called Ireland Studies. It is not a very profound course, but it takes in everything about Irish history, culture, traditions folklore, music, language, poetry, literature, politics and the situation in the North of Ireland today. When Father Everett was Chairman, he suggested to me to start an Ireland Studies Tour for the sake of the students taking the course. I am very grateful to him for this, because it has given me the opportunity to share my country and my family with so many of my students. A number of them have returned on their own during the holidays... a few even on their honeymoon!

Wherever I go in Ireland with our students, people always compliment me on their warm personalities, friendliness, good manners and openness. Maybe the people who tell me these things have "kissed the Blarney Stone", but I like to believe them!!

Another of the activities I am involved in is Sophia Model Productions, inherited from Father Mason. This group is still going strong and continues to produce two plays a year.

Finally, I should mention that my weekend is often spent as the officiating priest at the weddings of our graduates in the Kurturheim. Last year I had the privilege and joy of blessing the marriage of 29 couples.

From all this you will see that I love being part of the Sophia Family. I appreciate this opportunity to send you my warmest wishes and prayers.



☆☆オール・ソフィアンズ・デーで会いましょう☆☆
1997年度 SELDAA 総会・懇親会のお知らせ

1997年度 SELDAA 総会を、5月25日(日) オール・ソフィアンズ・デーに開催いたします。総会では、活動報告、議案の承認の他、SELDAAの今後の活動について、多くの方のご意見を伺いたいと思います。また、総会後にささやかながら和やかなパーティーを予定しております。ワイン、ビール、オードブルは飲み放題食べ放題で、しかも会費は無料。ぜひご家族、同級生をお誘いのうえ、久しぶりに四谷のキャンパスまでお出かけください。

日時: 1997年5月25日(日) 午前11時から / 場所: 上智大学四谷キャンパス1号館101教室

「おまけの人生、生き生きと」

坂口 育子(昭和54年卒)



我家から1分程の所に昨年4月に精神障害者のためのグループホームが建ちあがりました。その1階に‘やすらぎ’という喫茶店がオープンしました。その利益は精神障害者生活支援に使われますが、町内会館もないこの地域の方が気軽にご利用していただけるコミュニティスペースになればという願いをこめて作られました。私の母と叔母がここに深く関わっていたことから私も1人のボランティアとしてお手伝いさせていただいています。‘やすらぎ’はボランティアによる運営で、その名のごとく、誰にでもゆっくりとホッとさせていただけるように心のこもったサービスにつとめています。

ここを手伝うことでいろいろな気づきがあります。なんと1人暮らしのお年寄りが多いことか。なんと心を病んでいる大人や子どもが多いことか。この方のためにと心をこめていれるコーヒーがおいしくなること。カウンター越しにかわすお客様との会話を楽しんでいる自分。人と交わることで安らいでいる自分等。卒業後、人と関わるのが好きだった私は教師となり、仕事に全力をつくした20代。子育てを自分の仕事と選択した30代。胃ガンの宣告を受けましたが、術後4年経過して元気に迎える40代に私は何をすべきかを考えます。おまけの人生を生き生きと、自分らしく、自分を生かして生きるにはどうする？

多くの人の出会いの場となる‘やすらぎ’は、私にとって大切な場となりそうです。

「文字通りのヒューマニズム」

在ギリシャ日本国大使館勤務派遣員

長谷川 淳 (平成6年卒)



卒業して3年が経つ。当たり前だが3歳年をとった。誰にでも年月は平等に流れている。ただ、世の中全ての物から何かを学ぶ姿勢を持ち続ければ、年をとることはそれほど苦にはならないという気もする。

さて、「ギリシャ人ってどんな人々ですが?」とよく聞かれる。経験的に習得した見分け方をいうと、(1)よく喋る(といっても「自分のこと」だけ)(2)政治の話が好き(3)よく食べる(4)よく騒ぐ(5)踊りが好き(6)声大きい(7)顔つきはヨーロッパ的でありアラブ的でもある(8)営め上手(9)男女を問わず煙草の量は多い、等々となる。勿論、これだけを聞くとなんだかたまらない人々のような気がする。確かにバスの運転手は道を間違えるし(謝らない)、髭を生やしているおばさんを見かけたことがあるし、運転マナーは悪いし、仕事は楽しようとするし(ストが多い)、スーパーでは会計を済ます前に買う物を食べてしまう人はいるし、と滅茶苦茶である。(まあ面白いことには事欠かない。)しかしこの滅茶苦茶さは、突き詰めていえば、自己中心的な生き方の現れかとも思う。(因みにegoisticのegoは希語で「自分」のこと。)それは、めまぐるしく世の中が変わっていく日本に比べれば非常に変化の緩やかなこの国が、遙か昔から現代へと受け継いでいる「人間らしさ」の本質とも言える。西洋文明の発祥地としての時代から、良くも悪しくも人間を中心に据えて(ギリシャ哲学を思い出してほしい)、その流れが現代まで綿々としたこの「人間らしさ」を、「憎めない自己中心的さ(本能的生き方)」を伝えている。この事を捉えて、「変わっていくものと変わらぬものを比べたら、この国では、きっと変わらぬものの方が多いに違いない」と言った人がいた。

最後に、大使館勤務といっても、私はいわゆる「外交官」ではない。あくまで「派遣員」であり、誤解されると困る。皆さんの中には、どんな仕事をしているか不思議に思う人もいると思うが、紙幅の関係があるので、いつか機会があれば続きを書きましょう。それでは、アーモンドの花が春の訪れを告げるアテネよりこの辺で。

卒業生短信

このコーナーも3回目となりました。今回は3月末までに事務局に届いたお便りを掲載いたします。(本文中では敬称を略しております。ご了承ください。)

◆97年の春から、夫の転勤に伴い、10年ぶりでアメリカに居住することになりました。3才になりたての長女と12月に生まれたての次女をつれての赴任なので、交換留学生の頃の自由は無いと思いますが、ボストンという土地柄、聴講生としてでも学生に戻れる一瞬を楽しみに出発します。

元木 美砂(旧姓 森)(昭和62年卒)

◆第一生命保険相互会社に入社し、今年で10年目をむかえました。3年8ヶ月にわたる仏駐在も含めて、一貫していわゆる国際部門にて勤務させて頂いてますが、この10年間の環境変化には驚くべきものがあります。今後の10年間もまた金融制度改革の大きなうねりの中で楽しい仕事出来るのではと思います。

田代 琴子(昭和62年卒)

◆1993年9月に米国南カリフォルニア大(USC)でPh.D.(言語学)を取得し、94年4月より東北大学で言語学(大学院)と留学生対象の日本語を教えています。いまでも英語には特別な愛着がありますが、留学以後は韓国語、古典日本語、そして自分の母語である日本語を研究対象とすることが多くなってきました。やはり生まれたときから操っている母語の直観というのはあなどり難しいものです。これからはできれば東南アジアの言語やトルコ語などに手をのばしてみたいと思っています。

堀江 薫(昭和57年卒)

◆昨年4月上海に赴任してきました。入社以来6年半国内営業の後、1年弱台湾で語学研修(中国語)、そして帰国後すぐ、上海駐在の辞令をもらってと、英語からはすっか

り縁遠くなりました。上海は最近国際的都市として復権しつつあり、英語を使う機会もあるのですが、今では英語を話そうとしても中国語とチャンポンになってしまって、出身大学を言うのが恥ずかしい今日この頃です。上海にお立ち寄りの際はご一報下さい。ちなみに10月~12月が、カニがおいしい一番いい季節だそうです。

浅野 英俊(平成元年卒)

◆昨年4月より現地法人香港マルハ勤務となり、約3年間程香港在住となります。

安藤 慎一(昭和63年卒)

◆海運会社28年勤務し、8年前、海上コンテナリース会社トランス・オーシャン社に勤めていました。去る10月16日米国大手会社トランスアメリカリーシング社に買収。引き続きトランスアメリカ社に勤務することになりました。海上コンテナ部門の冷凍コンテナ担当の営業部長です。

平賀 哲(昭和36年卒)

◆以下の2冊を出版しました。
「現代の英文法：大学編(新版)」を共訳(池上嘉彦ほか訳)により紀伊國屋書店より出版。A5判930ページ、税込み5,800円。(原著：A Student's Grammar of the English Language, 2nd ed., S. Greenbaum and R. Quirk, Longman)

"Complex Predicates in Japanese: A Syntactic and Semantic Study of the Notion 'Word'"を米国のCSLIと日本のくろしお出版との共同出版により出版。ペーパーバックA5判345ページ、税込み3,914円。日本語の複合述語に関する言語学の専門書。博士論文の改訂版です。

松本 曜(昭和58年卒)

◆2年前に7年間勤務した会社を辞め、フルブライト奨学生としてノースウェスタン大学ケロッグビジネススクール(大学院)に留学しましたが、昨年無事に卒業、帰国し、社会復帰したばかりです。夫(上智、62年卒、賢)を日本に置いての留学は予想外に苦勞の多いものでしたが、激しい勉強漬けの日々、competitiveなアメリカビジネスエリート予備軍たちとの交流、と刺激だらけの2年間は充実していました。

織井 弥生(旧姓 鍵谷)

(昭和62年卒)

◆昨年6月福岡へ転勤となり、10月には男の子を出産いたしました。子育てに奮闘中で、学生時代の友人ともあまり会えず、皆どうしているかわからない中、会報はいつも楽しく読んでいます。福岡にソフィア会等ありましたらお知らせ下さい。

細田 晶子(旧姓 成富)

(平成元年卒)

◆卒業後勤めた会社を昨年6月で退職し、新天地沖縄で生活を始めました。大好きなこの地で美しい海と自然を満喫しています。仕事は英会話、留学関係を任される予定です。在沖縄の上智大卒の方がいらしたらご連絡下さい。

入野 顕光(平成2年卒)

◆転勤で1996年夏にドイツのデュッセルドルフに赴任いたしました。今春家族も渡独する予定です。
近藤 清(昭和50年卒)

◆9年間勤めた会社を辞め、独立してフリーの編集者になりました。昨年末に新しい事務所に引越しました。今年から本格的に活動開始します。

長谷 彩子 (旧姓 猪股)
(昭和62年卒)

◆1986年春卒業し、日本航空の国際線スチュワーデスとして入社、早いものでもう10年経ちました。その間に、結婚、出産、育児休職後フライトに復帰、現在は2人の男の子(6歳と3歳)の母となりましたが、仕事も楽しくてやめられません。ワインが大好きなので、ワイン・スクールに通ってソムリエの資格も取りたいし、語学留学もしたいけれど、もう少し子供達が大きくなるまでは無理かしら…。でも、大きくなったら、今度は受験などで、結局母親業も忙しくなりそう…。職場も、航空業界は先行き不透明で、ますます厳しい環境になりそう、と、日々悩みながら、専業主婦になる勇気もなく、全てに中途半端なのですが、理解のある優しいだんな様に甘えながら、何とかやっています。JALの機内で、皆様にお目にかかる日を楽しみにしています。

庄子 美樹 (旧姓 星子)
(昭和61年卒)

◆1月末に翻訳『フロイト・人権・ジェンダー』(サンダー・L・ギルマン著)が青土社より出版されました。私にとっては昨年5月の、元英文学科教授の別宮先生との共訳『ハプスブルク帝国衰亡史』(原書房)につぐ2冊目の翻訳です。いずれもあまり売れそうになくて、おそらくすぐ絶版になるでしょうから、関心をお持ちの方は、お早めに書店へどうぞ…。お願いいたします。

卒業→新聞社勤務(記者)→大学院

(慶應)→非常勤講師(慶應、明治、埼玉など)をへて、4月から久しぶりに定職につきます。S女子大の英文科で、アメリカ文学・フェミニズムを教えます。人一倍結婚に憧れ、マダム生活をエンジョイするのが夢見たpatriarchyのかたまりみたいだった私が、今こうしてフェミニズムを語るなんて、とても不思議で少々気恥ずかしい気もしますが、この際ひとりでも多くの女子大生に可能性ひろがる一個の人間としての自覚を促すべく力を尽くすつもりです。私も勿論、まだ自分の可能性がはるか彼方まで開けていることを信じています。この楽天的人生観も、上智のお陰です。

鈴木 淑美 (旧姓 西塚)
(昭和60年卒)

◆ジョギング歴20年、年間1200～1300 km。遠地此地のロードレースに参加しています。1996年は自己最高を2回更新。(1)フルマラソン: 第9回小笠・掛川 3:56:10 (2)ハーフマラソン: 第5回 Oh!湖草津 1:43:36

毎月1回、会社の同好会「山歩倶楽部」の仲間と関西の山谷を中心に跋涉。テニス歴も20年。月2回ほどのペースで楽しんでいます。体力だけはより若い世代に負けなようにと努めています。

長縄 友明 (昭和39年卒)

◆会報No.23にて定年退職したことを報告しました。

9ヶ月の充電期間を経て、年明けの1月9日にモンゴルの大学に赴任いたします。任務は日本語教育と大学の運営の指導・助言となっていますが、私は学生の教育をメインにしたいと思っています。

日本とモンゴルの関係は意外に知られていませんが、モンゴルの国家予算の1/2が日本からのODAに

よる援助とされています。主としてインフラに使われているようですが、その効果がはかばかしくなく、今後は人材育成に力を入れるべきである、といわれています。私の仕事もそのようなソフト面の技術援助と認識しております。

永江 史朗 (昭和34年卒)

◆長い学生生活の後、ようやくこの2月、カナダ B.C.州の弁護士になりました。

e-mailaddressは、
sakura@junction.netです。
柴田 咲良 (平成元年卒)

◆平成8年8月末～10月初めまで40日間入院、前立腺がん全摘手術をしました。6時間の大手術でしたが、成功裏に終わり、貯血しておいた自己血1,200ccも使わずに済みました。ところが退院する寸前に肥厚性胃炎の疑いありと健診の結果が出て、胃カメラ検査をすると、粘膜に早期がんが見つかり、内視鏡を8回も出し入れして粘膜を直径5cmと2cmの2カ所切除しました。粘膜がんは取り切ってしまうと95%が5年間、90%が20年間は生き延びられるそうで、退院1ヶ月後に胃カメラで診たところ、粘膜の大穴はふさがっていましたが、小さな突起部分と赤くただれた個所があり、念のため生体組織をとり検査しています。ノアの方舟は40日間のあと虹が出て救われたとありますが、私も9月22日の台風17号の後、昭和大病院10Fから大きな虹2本が出たのを見て、希望がわいてきました。もう元気でやっていますので、ご安心下さい。早期発見、早期治療が第一です。
佐々木 寛 (昭和34年卒)

SELDAA 女性セミナー

女性セミナーでは、毎月一回、学内外からの講師をお招きして、それぞれご専門の分野の講演をしていただいています。今回は1996年10月から1997年3月までに開催された講演をまとめてご報告したいと思います。

10月23日(水) Fr. Donal Doyle (上智大学外国語学部英語学科教授)

「アイルランド関連のお話」

11月27日(水) Fr. Donal Doyle (上智大学外国語学部英語学科教授)

「Irish Folklore」

皆さんは、"Here was once a poor man who lived in the fertile glen of Aherlow, at the foot of the gloomy Galtee mountains, and he had a great hump on his back:" で始まる "The Legend of Knockgrifton" というアイルランドのfolkloreをご存知でしょうか。何とこれは「こぶとりじいさん」のアイルランド版なのです。民話の不思議な世界にひきこまれた1時間半でした。



12月11日(水) 石倉洋子氏 (青山学院大学国際政治経済学部教授)

「ITS (Information Technology and Systems) Broadening the World for Women」

今や世の中はインターネットの時代——しかし私も含めて、何となく敷居が高いと思っていられる方も多いのでは？ 我が英語学科の卒業生である石倉先生は、そんな私達女性にこそインターネットが役に立つということを熱意を持って話して下さいました。距離と時間に制約のないインターネットを通して、家庭にいながら主婦が仕事をできること、また、病人・高齢者の介護などで外出がままならない人も、インターネットやe-mailで遠くの人といつでも交信できること、など。もちろん、インターネットにも欠点はありますが、とにかく "Just try it. It may broaden your world!" という先生からのメッセージをお伝えします。

1月22日(水) Fr. J. ミヘルチッチ (上智大学外国語学部教授) 「東欧のその後」

2月26日(水) Mrs. Jelisava Dobovsek-Sethna (音声学教授)

「Codeswitching in Some Teenagers at International Schools
in Tokyo (Bilingual Behaviour in In-Group Communication)」

"They IKINARI said: "NANDA KONO GAKI", and they kicked me and MAJIDE ITAKATTA"

——これはバイリンガルの外国人と日本人のティーンエイジャー同士の会話の一部です。オルブライト米国務長官に代表されるマルチリンガル、バイリンガルは注目的ですが、彼らが頭の中でどのように codeswitching しているかを、言語学の研究を通して、パターンを示してわかり易く話して下さいました。

3月12日(水) ペマ・ギャルボ氏 (チベット文化研究所所長)

「"ANIMAL FARM" について」

George Orwellの "ANIMAL FARM" を通して、今の日本、中国、チベットの現状について、テレビなどでもおなじみのギャルボ氏から大変興味深い話をうかがいました。"ANIMAL FARM"には、洞察に満ちた本、物事を把握するための本、と紹介されました。言語の中にはスパイスが必要で、Orwellや加藤シズエ氏の話は優れているとおっしゃられていましたが、ギャルボ氏のお話もたっぷりとスパイスがきいていました。

〈今後の予定〉

●日時: 原則として毎月第4水曜日 10:30~12:00

●場所: かつらぎ館地下1階ホール

●会費: 3,000円/年、または、500円/1回のみ

●連絡先: 世話人 日岡久美子(49年卒) 03-3775-8988

●会計: 三好比呂子(49年卒) 03-3348-0285

渡辺まかや(49年卒) 045-361-4221

■異動通知にご協力ください

ご住所、勤務先などに変更があった方、名簿の誤りを訂正される方、お名前の正しい読み方を知らせてくださる方は、英語学科同窓会事務局またはソフィア会までお知らせください。また、住所不明の方が多数いらっしゃいます。消息をご存知の方、情報をお寄せください。

今年度末には3年に一度の同窓会会員名簿の発行(会費納入済みの方に郵送)を予定しておりますので、なお一層の皆様のご協力をお願い申し上げます。

■SELDAAより、募集とお知らせ

◆SELDAAでは、皆様より、この会報に載せる記事を募集しています。近況や最近感じたことなど、なんでも結構です。原稿に写真を添えて、あるいは、同封の葉書にご記入の上、お送りください。

◆この同窓会の常任委員として手伝ってくださる方を募集しております。ボランティアで私達と一緒に会を盛り上げてくださる方、ご連絡お待ちしております。

上記に関するご応募・お問い合わせは、お気軽にどうぞ。

連絡先: 英語学科事務局 東郷公徳まで TEL.03-3238-3719 FAX.03-3238-3910

■会費納入のお知らせ

本会の諸活動は、卒業生の皆様からの会費の納入によって賄われています。同窓会活動のより一層の充実と活性化を図るために、ぜひ会費をお支払い下さいますようお願い申し上げます。

会費の支払い方法には、毎年会費を支払う「一般会員」と、一括払いの「終身会員」の2通りがあります。初めて会費をお支払いになる際には入会金もあわせてお支払い願います。金額は下記の通りです。同封の振替用紙にて最寄りの郵便局または銀行よりお支払いください。その際、ソフィア会会員番号を必ずご記入ください。

入会金 : 1,000円

一般会員 : 年会費 2,000円 (できれば3年分まとめて)

終身会員 : 一括払い 20,000円

《あなたの会費納入状況》

封筒の宛名ラベルの右上をご覧ください。

◆「S」のスタンプが押してあるのは、「終身会員」であることを示しています。

◆「未」のスタンプが押してあるのは、今年度の会費が未納になっていることを示します。

5,000人を超える同窓会会員の会費納入状況のチェックには多大な手間と時間がかかります。チェックの時期と納入の時期が重なったなどのために行き違いがあった場合は何卒ご容赦ください。

SELDAA 常任委員 (平成9年4月現在)

■名誉会長/吉田研作(昭和47年卒)

■女性セミナー/安西徳子(昭和49年卒)

■会長/座間由美子(昭和43年卒)

■常任委員/鈴木達也(昭和38年卒) 井波明夫(昭和39年卒)

■副会長・事務局長/東郷公徳(昭和62年卒)

小林修(昭和39年卒) 関浩一(昭和39年卒)

■副会長/池沢なるみ(昭和48年卒)

石川雅弥(昭和40年卒) 斎藤敬子(昭和48年卒)

■会計/竹内るり子(昭和48年卒)

増田光(昭和59年卒)

土肥百合子(昭和48年卒)

■監査/菊谷秀子(昭和43年卒) 井坂由美子(昭和47年卒)

■会報/佐藤誠一郎(昭和53年卒)

大日方聖信(昭和62年卒)